

ある人生の記録

経済学者の夫、森嶋通夫を語る

最終回 「私のボランティア活動」



森嶋瑤子略歴

もりしま ようこ：1930年神戸生まれ。東京女子大学数学科（旧制）卒業後、日立製作所中央研究所助手、大阪大学経済学部助手などを務める。1968年に家族とともに来英し、以後、英国在住。1984年、国際児童文庫協会（ICBA）を東京で創設したオーバル・ダン氏とロンドンで出会い、日本語の文庫活動を始め、ICBA UK支部を創設。以後、支部長を務める。

20世紀後半、世界的な経済学者として英国の名門大学で教授職を務められた森嶋通夫氏。私が森嶋さんを知ったのは学生時代、同氏の著書を読んだのがきっかけだった。毎日の忙しさに森嶋さんのことは記憶の彼方にあっただが、約2年前にあるレセプションで森嶋さんの奥様、瑤子さんとお会いしたことから再び同氏の在りし日の活躍に思いを馳せるようになった。森嶋氏の人生の三角波を瑤子さんからお聞きする、全6回シリーズ。



（センターピープル代表取締役 飯塚忠治）

※三角波：時化た海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

森嶋通夫略歴

もりしま みちお：1923年～2004年。大阪府生まれ。京都帝国大学経済学部経済学科在学中に徴兵。軍では暗号解読を担当した。戦後、京都大学助教授、大阪大学教授を経て1968年来英し、エセックス大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の教授を歴任。ノーベル経済学賞の候補者とも目された世界的な数理経済学者。

飯塚 森嶋通夫さんの英国での人生をご紹介させていただくために、これまで5回にわたって奥様の瑤子さんにお話を伺いました。本日はこのシリーズの締めくくりとして瑤子さんの英国での活動についてお聞かせいただけます。瑤子さんは、現在の日本に開關以来の波が押し寄せているとお考えですか？

瑤子さん 日本は明治維新で開国しましたが、海外と商品や情報の交流はあっても人間はほとんど交流していませんでしたし、20世紀に入ってから戦争が次々起こって、ついにはすべての交流が途絶えてしまいました。敗戦から立ち上がり、ジェット機の普及に助けられて人間の交流が現在のよう状況になったのは、日本の歴史始まって以来の出来事です。その結果、国際結婚は珍しいことではなくなりました。増えつつある国際結婚や海外に移住した家庭の子供たち、将来はその二世、三世たちに日本語や日本文化をどう伝えるか真剣に考えるのは今だと思えます。

飯塚 そうですね。私の子供の日本語力について振り返ってみますと、家庭内で日本語や文化を教えるのは難しかったと思います。瑤子さんが現在、携わっておられる活動は一つの解決策を提供されている？

瑤子さん 1979年にオーバル・ダン氏により東京で創設された国際児童文庫協会は、いわゆる帰国子女のための活動でしたが、現在は海外で育つ子供たちのために活動しており、主として母親による完全なボランティア団体です。英国には現在、36文庫あり、約650人の子供が参加しています。それぞれの文庫は子供の人数、年齢、性別などの構成が異なっていますが、学校でも日本語塾でもなく、日本語を話す小さいコミュニティです。そこでは絵本や紙芝居、ゲーム、歌

などを通して、楽しく日本語や日本の文化を身に着けます。子供が最初に言葉に触れるのは家庭やその周辺で、学校で習うものではありません。日本語に楽しく触れられる環境を子供たちに与えるのが大切ですね。私は最近、英国で育つ子供たちにとっての日本語は方言のようなものだと考えるようになりました。方言は学校で習うのではなく、環境の中で自然に身に着いたものであり、地方出身の方に何うと長年使わなくても、その環境に戻ると驚くほど自然に出てくるそうです。英語社会で育つ子供たちが成長し、日本に興味を抱き、もつと日本語を勉強したくなるときの基盤になればうれしいですね。

飯塚 瑤子さんが幼児や児童に日本語を習得してほしいと思われたのはどのようなきっかけがあったのでしょうか。

瑤子さん 最初に海外生活を送ったのは1956年で、日本にはテレビはまだ普及しておらず、海外事情もほとんど分からなかったころです。見るもの聞くもの驚くことばかり。オックスフォードで会ったポーランドの若い女性から数カ国語を話せると聞いたときもそうでした。親戚や友人に色々な国の人がいて、幼いときから彼らの会話を聞いて話せるようになったと知り、外国語は学校で習うものと思込んでいた私はびっくり。日本からの留学生の女性から、フランスの留学生の試験にも合格したから来年はパリ大学に留学すると聞き、またびっくり。彼女は戦前、ロンドン駐在家庭の娘で幼いころから英語に触れており、戦争勃発で帰国するときに母親が英語の本をたくさん持ち帰り、その後も家庭で本を読んでいたため、大学ではフランス語を勉強したそうです。また、日本帰国時に米国に立ち寄り、中田さんとおっしゃる一世の家庭に数週間滞在したのですが、「これは中田語よ」と言って、母娘が日米語が混じり合った会話を楽しそうにしているのを目の当たりにしたのも、貴重な経験でした。

飯塚 言語は単にツールであるという表現がありますが、ツールの先には思いもよらない大きな何かが存在しているのかもしれないですね。

瑤子さん 当時はまだ子供はいなかったのですが、図らずも我が家も海外移住となったので、これらの経験を生かすことができました。文庫活動を通して、同じような家庭の皆さんにも役立てばと願っています。

飯塚 それこそがボランティア活動の精神と言えるのですね。

瑤子さん 英国ではボランティア団体は政府や役所のお膳立てで始まるのではなく、市民が必要と判断して始め、活動の対象になる人たちが存在する限り、継続することを意図しています。私たちも、日本の宝でもある子供たちがいる限り、継続すべく努力しています。

飯塚 毎日、毎日の積み重ねが大切な活動であることがよく分かりました。この対談シリーズの始まる前に色々な話を瑤子さんとお話しましたが、日本と韓国、中国との関係について、私が「日本人として」という枕詞を使ってコメントしたときに、「飯塚さん、日本人ということでなく、それを人間として、と言い換えたならどうかしら？」と言われ、窓が一瞬開いたような気がしました。6回にわたる対談にお時間を頂きまして本当にありがとうございました。

国際児童文庫協会 UK 支部 (ICBA UK)
<http://kodomobunko.org.uk>

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます
www.centrepeople.com/japanese/article

Presented by
centre people
Recruitment Consultants

情報を発信し続けるセンターピープルは、人材紹介、派遣のエキスパートです。
誠意をもって心をこめたサービスを企業様、ご登録者の皆様に提供することを常に目指しております。

お呼び
ですか？

こんな時はセンターピープルにご相談下さい！

- 🐾 期間の決まった新規プロジェクト立ち上げ
- 🐾 正社員の予算はないが、戦力が必要
- 🐾 正社員の出産休暇中の戦力
- 🐾 様々な状況による柔軟な戦力として
- 🐾 繁忙期の期間限定戦力
- 🐾 短期、長期
- 🐾 日本語、英語、欧州言語

多忙で猫の手も借りたい時は、 戦力としてのテンプ【派遣社員】

私たちはこの道のプロフェッショナルです。テンプ採用に限らず正社員の採用の際にも弊社サービスをご利用いただくことで、安心してビジネスにご専念いただけます。

centre people
Recruitment Consultants

Centre People Appointments - Temp Staff 80 Cheapside London EC2V 6EE
Tel: 020 7621 3581 E-mail: centrepeople@centrepeople.com www.centrepeople.com

